

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 2 月 14 日作成)

小委員会名	ヒューマナイジング小委員会		主 査 名: 讃井純一郎 就任年月: 2008 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (環境心理生理運営委員会)		委員長名: 井上 勝夫 主 査 名: 大井 尚行
設 置 期 間	2005 年 4 月 ～ 2009 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒューマナイジングに関する情報を整理する。(2005～2008 年度) ・ ケーススタディを収集する。(2005～2008 年度) ・ 業務として確立するため、手法を普及させる。(2005～2008 年度) ・ 刊行物を企画する。(2005～2008 年度) 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無: 無		
	宇治川正人(竹中工務店)、成田一郎、丸山玄(大成建設)、山田哲弥(清水建設)、讃井純一郎(関東学院大学)、小島隆矢(建築研究所)、植木暁司、小野久美子(国土交通省)、古賀誉章(東京大学)、影山優子(日本社会事業大学)、佐藤隆(JR 東日本)		
設置 WG (WG 名: 目的)			
2008 年度予算	10,000 円	ホームページ公開の有無: 無 委員会 HP アドレス:	

項 目	自己評価
委員会開催数	4 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	ゲストスピーカーを招いての勉強会を実施 参加者数 10～15 名 1. 小林茂男氏(武蔵工業大学)「落書きのある街アートのある街」(2008.4.1) 2. 神野由紀氏(関東学院大学)「デザイン文化史から見た日本の住まい」(2008.8.5)
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	1.
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. ヒューマナイジング研究の研究対象、研究手法の拡張可能性検討を目的に、2 回の勉強会を実施。 2. 2009 年度以降の「ヒューマナイジングの実践」小委員会の活動方針、内容についての討議。
委員会活動の問題点・課題	1. 2.

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

2008 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>・ ヒューマナイズングに関する情報を整理する。(2005～2008 年度)</p> <p>・ ケーススタディを収集する。(2005～2008 年度)</p> <p>・ 業務として確立するため、手法を普及させる。(2005～2008 年度)</p> <p>・ 刊行物を企画する。(2005～2008 年度)</p> <p>という目的・計画に対し、この4年間で、下記の成果をあげることができた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ヒューマナイズングに関する情報を整理し、4原則(試案)を作成 ヒューマナイズングに関する情報として、①関連分野の動向、②背景と意義、③4原則に対応した技術や手法、④技術や手法と事例、などを整理した。 海外文献の翻訳 <ol style="list-style-type: none"> 「Learning from our buildings 序文」 POEの発展:建物性能評価とユニバーサルデザイン評価(W.F.E.Preiser 著) これまでの活動成果を技術報告集に投稿 技術報告集 21号(2005.4)「建築空間のヒューマナイズングに関する検討」 公共空間を対象に「おもてなし感」について検討し、要求品質展開表とチェックリストを試作した。 チュートリアル「ニーズをカタチにする」を実施(2006.4.27) アーバンインフラテクノロジー推進会議第19回技術研究発表会で「交通ターモナルにおけるおもてなし感の品質表」を報告(2007.11.5) ゲストスピーカーを招いての勉強会を実施 小林茂男氏(武蔵工業大学)「落書きのある街アートのある街」(2008.4.1) 神野由紀氏(関東学院大学)「デザイン文化史から見た日本の住まい」(2008.8.5) <p>来年度以降は「ヒューマナイズングの実践小委員会」において、これらの成果を活かし、ヒューマナイズングという考え方の実務適用を促進するための活動を展開していく所存である。</p>			

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価:小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価:小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価:小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価:小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者の評価・外部評価(シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など)に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。